

「6歳までの定期健診の実態」

板家小児歯科医院

山 本 絵 美

生涯に涉ってより良い口腔状態を維持、管理していく為には小児期からの定期的な口腔管理が大切になって来ると思います。今回のシンポジウムのテーマである『ライフサイクルから見た小児の定期口腔管理』とは私達が毎日接している成長発育の途中にある小児にとって最も大切なものであると思います。

小児の口腔環境は成長発育と共に変化をして行きます。すなわち小児に対する定期健診における指導においても成長発育に従って内容を変えていく必要があると思います。定期健診の内容としては、健康教育、予防教育、予防処置、疾病・異常の早期発見、治療などの項目があります。歯科衛生士の立場から定期健診における、乳幼児期からのう蝕予防管理について考えていきたいと思います。そこで、当医院における実際の定期口腔管理の方法を小児の口腔環境の変化に応じた時期により分類し説明したいと思います。当医院では1才6ヶ月児歯科健診を主訴に来院する患児が全体の約30%を占めています。そこで、1才6ヶ月時より口腔管理を行った患児を主体に6才時までのう蝕の数、定期健診の回数、間隔等の実態を報告し各年齢別の定期口腔管理の方法について発表します。

乳幼児期からのより良い指導方法、管理方法などのご意見を伺いたいと思います。